

第5章 学生の受け入れ

1. 現状の説明

(1) 学生の受け入れ方針を明示しているか。

<1>大学全体

本学の学生受け入れ方針（以下、アドミッション・ポリシー）は下記のとおりである。本ポリシーは、本学ホームページ、大学ポートレートで公表している（資料 5-1 p.3、資料 5-2 p.2）。

学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

本学が期待する入学生は、固定的な知識の習得のみに関心を示す学生よりは、柔軟性を持ち、好奇心に支えられて、向上心を持って物事にとりくむ学生である。そのため、高校時代ですでに完成された個人である必要はないが、大学で自らを大きく伸ばす可能性を持った人間であることを期待する。また、キリスト教の愛の精神に理解を示し、学生時代の時間を、自らを高めるだけでなく、他者のためにも使いたいという心を持つ学生を期待する。

<2>文学部

文学部のアドミッション・ポリシーは下記のとおりである。学部のポリシーは本学ホームページや大学ポートレートで、各学科のポリシーは、ホームページに加え、入学試験要項にも明記している（資料 5-1 p.5、p.7、p.9、p.11、資料 5-2 p.5、資料 5-3 p.1）。

文学部 学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

文学部が期待するのは、母語および外国語を学ぶことを通じて、さまざまな自己と他者のあり方、すなわち人間をとりまく環境がもたらす文化・歴史の成立に関心を持ち、これを深く理解したいと願う学生である。さまざまな情報を的確に受容し、論理性を持って発信できる言語能力の重要性はもとより、人間関係におけることばの力に積極的な関心を持ち、これを豊かに拡充して、社会に積極的に貢献していこうとする意欲を持つ学生を受け入れ、育ててゆきたい。

<英語学科>

英語学科では、中学校・高等学校での学習において英語の基礎力を十分に身につけた入学者を想定している。すなわち、高校卒業時に十分な語彙力を身につけ、基本的な構文が理解できる程度のリーディング能力、一通り学校文法の基礎を理解し、基本的な文に関して文法にかなった文が書ける程度のライティング能力を期待している。また、どちらの専修も、1年次にネイティブ・スピーカーの授業が多くあるので、テレビ・ラジオ講座や語学の音声教材などによって、特にリスニングとスピーキングの能力を高めておくことが望ましい。

<日本語日本文化学科>

日本語日本文化学科では、日本語そのものに対する興味であれ、文学作品に対する興味であれ、ことばに対して何らかの意識を持つことができる学生を期待している。広い視野を持ち、自分自身を客観視できる基礎学力を持っていることが必要であり、特定の科目に

限定せず、自覚的に学ぶ習慣を身につけ、ことばに対しての感覚を磨いておくことが望ましい。

<総合文芸学科>

総合文芸学科では、文学・美術・音楽・メディア（情報媒体）・広告など様々な領域で展開されている現代文化に対して好奇心を持って取り組もうとする学生を受け入れる。本学科では、このような人間の精神的活動の持つ世界的な広がりや歴史的な側面に注目しながら学びを展開していく。知的な探求に不可欠なことばへの関心と感受性を持つ学生に期待を寄せている。

<3>人間科学部

人間科学部のアドミッション・ポリシーは下記のとおりである。学部のポリシーは本学ホームページや大学ポートレートで、各学科・専攻のポリシーは、ホームページに加え、入学試験要項にも明記している（資料5-1 p.13、p.14、p.15、p.17、p.19、p.20、資料5-2 p.8、資料5-3 p.1）。

人間科学部 学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

人間科学部では、固定的な知識の習得のみに関心を持つのではなく、広く人間社会や自然に好奇心を抱き、向上心を持って物事に取り組む学生を期待する。そのためには高校時代にすでに完成された個人である必要はないが、大学教育を享受することができる基礎的な能力を備えていることが必要である。

<心理学科>

自己や他者の心の働き、心の問題の解決に関心を持ち、積極的に学ぶ意思がある入学者、他者と積極的に交わり、協同作業を通して社会に貢献する意欲のある入学者を期待する。

<生活学科都市生活専攻>

本専攻の入学者には、日常生活の何気ないことにも疑問を持ち、その疑問に対する答えを自分自身で見つけ出そうとする意欲があることを期待する。入学者は高校までに特別な知識を修得している必要はないが、科学的な視点を持ち、身の回りに気を配ろうとする態度を有していることが望ましい。

<生活学科食物栄養専攻>

食べ物や食行動に強い関心を持ち、将来個人や集団（地域）の健康の維持増進を食生活から支えることを目指している学生を求めている。食品学・栄養学、医学、生理学などの自然科学系科目を理解するために化学や生物の知識が必要となる。

<子ども発達学科>

子ども発達学科では、入学者は子どもへの愛情と教育・保育に対する熱意を持ち、教育・保育という仕事の厳しさと喜びの両面について意識的であり、その社会的責任の大きさに対する自覚を持っていることが望ましい。

<ファッション・ハウジングデザイン学科>

ファッション・ハウジングデザイン学科では、入学者は日常生活のなかで、身近なファッション（衣服や関連装飾）や住まい（インテリア、住居、まち）あるいはそれらのデザイン（色・形・材料・機能性あるいは空間についての造形）や芸術に関して興味・探究心・

創作意欲を持ち、積極的に挑戦してみようという意志を持っていることが望ましい。

<4>文学研究科

文学研究科のアドミッション・ポリシーは下記のとおりであり、本学ホームページ、大学ポートレートで公開している(資料5-2 p. 11、p. 13、資料5-4 p. 3、p. 4、p. 6、p. 8、p. 11)。

文学研究科 学生の受け入れ方針 (アドミッション・ポリシー)

神戸松蔭女子学院大学大学院は、聖公会キリスト教主義に基づく人格形成を根本方針とし、文化の創造的発展と人類の福祉に寄与する人材を育成することを目的としている。本大学院の志願者には、この大きな目的のもとに設定された各専攻の教育研究の目的を理解していることを期待している。そして、専門分野の研究を遂行するのに適した知識・学力の基礎を有し、さらに深い学識と高い研究能力・実践力を養う意欲を持つ人材を求めている。

<英語学専攻>

英語学専攻は、次のような人材が入学することを期待する。

言語への関心

- ・英語をはじめ、言語の性質やはたらきに関心がある人。英語の、日本語や自分の母語との相違点、共通点に関心がある人。
- ・英語をはじめ、語学力の向上に意欲を持っている人。
- ・英語をはじめ、外国語の教育や子どもの言語習得に関心を持っている人。

態度

- ・自分にとって新しい考え方や知識を得ることに積極的な人。
- ・ひとつの問題に対し、ねばり強く取り組むことができる人。

国際性

- ・国際的な場面で、自分の考えを表現することに意欲と関心を持っている人。
- ・異文化間のコミュニケーション、相互理解に関心を持っている人。

情報能力

- ・コンピュータ、インターネットの活用に関心と意欲を持っている人。

<国語国文学専攻>

国語国文学専攻は、次のような人材が入学することを期待する。

学問的関心

- ・日本語学、国文学に対する強い探究心と学修意欲を有している人。

態度

- ・知識の獲得、研究能力の向上に対して不断の努力を惜しまない人。

適応能力

- ・広い視野に立ち、創造的な思考とそれに基づく議論ができる人。

社会性

- ・研究者、教育者として社会に貢献することを目指している人。
- ・世界に向けて日本語、日本文学、日本文化を発信したいという希望を有する人。

<心理学専攻>

心理学専攻は、コースごとに定めた以下のような人材が入学することを期待する。

ー臨床心理学コースー

社会的関心と目的意識

- ・現代社会におけるこころの健康のあり方に関心を持っている人。
- ・心理臨床の専門家として社会に貢献するという強い目的意識を持っている人。

基礎的学力と意欲

- ・専門課程における学習や訓練を遂行するための基礎的な知識、学力を有する人。
- ・心理臨床の専門家として必要な高度な知識と技能を修得しようとする意欲を持っている人。

態度

- ・対人援助において不可欠である倫理観を備えている人。
- ・心理臨床の専門家として他職種と協同できる社会性を有する人。

ー心理学コースー

社会的関心と目的意識

- ・心理学の研究者や実証的調査の専門家として社会に貢献するという強い目的意識を持っている人。

基礎的学力と意欲

- ・専門課程における学習や研究を遂行するための基礎的な知識、学力を有する人。
- ・人間とその心理に対する好奇心と研究への熱意を持っている人。

態度

- ・人を対象とした研究に必要な他者への共感・配慮ができる人。

<言語科学専攻>

言語科学専攻は、次のような人材が入学することを期待している。

言語と言語科学への関心

- ・言語の性質やはたらきを科学的に研究することに関心がある人。言語間の相違点、普遍性に関心がある人。
- ・言語研究の教育や情報科学などへの応用に関心のある人。

態度

- ・自分にとって新しい考え方や知識を得ることに積極的な人。
- ・複数の角度と視点から問題解決に取り組むことができる人。

国際性

- ・国際的な場面で、自分の研究成果を発表することに意欲と関心を持っている人。

情報能力

- ・コンピュータ、インターネットの研究への活用に関心と意欲を持っている人。

(2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

<1>大学全体

①学生募集方法

学生の募集活動に際しては、本学での学び、並びに本学での学生生活の意義を受験生が自分自身で判断できるような、きめ細かな情報提供を行っている。具体的には、6月に開催している高校教員を対象とした進学懇談会、そして年に7回オープンキャンパスを開催し、教員のみならず本学の学生と触れ合うことができる機会を設け、受験生が学生生活の様子を直接肌で感じられるような場を提供している。また、本学が作成する「大学案内(パンフレット)」の配布や、受験雑誌、公共のメディア、ウェブ・サイトなどの多くの広報媒体を活用し、正確できめ細かな情報の提供に努めている(資料5-5)。

4月中旬から9月にかけては、受験生や保護者(高等学校の教員を含む)を対象とした進学相談会を全国15都道府県で約40回開催し、入学試験の変更点や学科の説明、また就職に関する情報提供を行っている。

また、1年を通じて、高校の元校長である入試・広報課員3名が、兵庫・大阪および周辺地域の高等学校を訪問し、アドミッション・ポリシー、教育内容、入学試験制度などについての説明を行っている。

オープンキャンパスでは、教員による学科の教育内容の説明や模擬授業、在学生とのフリートークなどを実施し、大学で学ぶ内容、学生生活の実際の様子を受験生が実感できるように工夫を凝らしている(資料5-6、資料5-7)。なお、受験生の情報収集方法が、新聞・雑誌などの従来型の広報媒体からウェブ・サイトを使用した随時情報発信型の媒体に重点を移しているため、受験生のより簡便な情報取得の要望に対応するため、本学ホームページの充実にも努めている。また、LINE(ライン)などのSNSを通じても、情報を発信している(資料5-8)。

高校教員対象の進学懇談会では、入学試験の変更点だけではなく、本学の教育方針、就職支援体制や就職状況に関する情報提供を行っている。また、全体の説明終了後には、学科ごとの教育内容や特徴などを質問できる個別懇談の時間を設けている。

②入学者選抜の適切性

各試験の実施に関しては、学長を議長とする入試総務委員会(構成員:学長、副学長、入試部長、学部長、事務局長、入試・広報課長)が実施母体となっている(資料5-9)。

入試総務委員会の所管事項

- (1) 1年間にわたる入試の準備運営に関する方針の審議
(教授会への報告・提議)
- (2) 入試各委員(入試業務分担)の編成・立案
- (3) 合格者判定案の作成・確認

この委員会の統括のもとに、教授会で承認された問題出題・面接・問題印刷・試験室監督・資料・事務渉外・設備・掲示・誘導・監視等の各委員が試験ごとに配置され、試験が実施されている。問題作成委員を除いて、これらの委員は、原則的に各試験単位で重複することなく選任され、業務を分担している。合否判定データは面接などを含めたすべての入学試験結果を数値化して作成し、これをもとに合否判定案を入試総務委員会で作成する。これを教授会に提出し、審議ののち最終決定を行う。

合否に関わる試験結果として、科目ごとに平均点・最高点・最低点、さらに合格者人数、倍率などを公表している(資料5-10 pp.19-22)。なお、入学試験に出題する問題は、複数の出題委員によって精査し、各科目間の平均点が大きく離れないよう留意している。また、

受験生から成績に関する問い合わせがあった場合、成績開示を速やかに行い、選抜に関する透明性を確保している（資料5-3 p.70）。

学生募集は、高校生が主たる対象であるが、本学で学ぶ志を持った社会人も視野に入れている。本学では、現在12種類の入学試験を実施している。高校生対象として、A0入試、公募制推薦入学試験、特別推薦入学（指定校）、本学院併設校からの松蔭高校生特別推薦選考、一般入学試験、大学入試センター試験利用の入学試験、帰国子女特別入学試験、外国人留学生特別入学試験、スポーツ優秀者推薦選考がある。社会人対象として、社会人特別入学試験、社会人特別編入学試験がある。また、他大学、短期大学の学生を対象に、大学3年次編入学試験を実施している（資料5-10）。なお、身体に障害のある入学志願者の受験については、オープンキャンパスを含め事前相談を受け付けて、個別対応の配慮を行っている（資料5-3 p.67）。これまで、弱視の受験生には問題用紙を拡大するなどの配慮を行った。

表5-1 入学試験制度

入学試験
A0入試
公募制推薦入学試験 A・B 日程・S 判定（推薦入試前期日程）
公募制推薦入学試験 C 日程（推薦入試後期日程）
特別推薦入学（指定校）
松蔭高校生特別推薦選考
一般入学試験 A・B 日程・W 判定（一般入試前期日程）
一般入学試験 C 日程（一般入試後期日程）
一般入学試験 D 日程（文学部のみ募集）
大学入試センター試験を利用する選抜（センターA・B・C）
帰国子女特別入学試験
外国人留学生特別入学試験
スポーツ優秀者推薦選考
社会人特別入学試験
編入学試験
大学3年次編入学試験
社会人特別編入学試験

A0入試には、成績評価型、活動評価型、松蔭ファミリー、聖公会信者等、の4つのパターンがある。いずれの場合も、出願の際に高校での一定以上の成績が要求される。さらに、各学科の学びにつながる課題作文、面接によって選考を行っている（資料5-11）。

公募制推薦入学試験では、専願受験と併願受験が可能で、A日程、B日程、C日程の3回の入学試験を行っている。A日程、B日程では本学会場に加え、学外試験場として大阪、姫路、高松、岡山の4会場を設けて受験生の確保に努めている。A、B日程は2教科の入学試験とし、各学科の特徴を考慮した出題科目を設けている。これにより本学の学生として平均的な基礎力と実力を判定している。一方、C日程は英語または国語の1教科型の入学試験である。この試験では、希望する学科で要求される基本的な教科に秀でた学生を選抜し

ている。A、B、C 日程ともに、合否判定では学力試験に加えて高校での成績を考慮した判定を行っている。推薦 A 日程および B 日程を共に受験した志願者には、各日程の合否判定に加えて、S 判定を実施している。これは、両日に受験した教科のうち、得点上位の 2 教科と高校での成績によって合否を総合判定するものである（資料 5-10 pp. 4-6）。

特別推薦入学(指定校)では、高校からの推薦基準を満たした志願者について面接を行い、学習意欲や人物評価などを重視して入学を許可している。指定校の選定および基準は、入試総務委員会において基本案を作成し、教授会の審議を経て、毎年度見直しを実施している。

本学院併設校からの松蔭高校生特別推薦選考においては、志望学科と同じ科目の学力試験（公募制推薦 A 日程）を受験し、その成績と、高校での成績を考慮して判定を行っている（資料 5-12）。

一般入学試験では、A 日程、B 日程、C 日程、D 日程の 4 回の入学試験を行っている。A 日程、B 日程では本学会場に加え、学外試験場として大阪、姫路、京都、高松、広島、岡山の 6 会場を設けて受験生が受験しやすいような体制を整えている。A、B、C 日程は、いずれも 2 教科の入学試験とし、各学科の特徴を考慮した出題科目を設けている。これらの試験では、高校の成績は考慮されず、各学科の特徴を反映した実力試験という位置付けとなっている。また、英語学科と日本語日本文化学科で傾斜型の配点を採用し、学科の特徴に合わせた学生の確保に努めている。また、一般 A 日程および B 日程を共に受験した志願者には、各日程の合否判定に加えて、W 判定を実施している。これは、両日に受験した教科のうち、得点上位の 2 教科によって合否を総合判定するものである。D 日程は 1 教科のみの入学試験であり、文学部のみで実施している。この試験では、学科の特徴を考慮した出題科目を設けている（資料 5-10 pp. 7-10）。

大学入試センター試験利用の入学試験は、センターA、センターB、センターC の 3 回実施している。特にセンターC は 3 月の後半に実施される試験で、年度内の最終試験を受験する受験生の確保に努めている（資料 5-10 pp. 11-12）。

帰国子女特別入学試験では、外国で学んだ子女で本学の条件を満たすものを対象とし、公募制推薦入学試験 B 日程の試験成績・面接・書類審査により合否を決定している（資料 5-10 p. 15）。

外国人留学生特別入学試験では、日本留学生試験の「日本語」、「総合科目」を受験し、一定レベル以上の得点を有していることを出願の条件とし、課題作文・面接・書類審査により合否を決めている。

スポーツ優秀者推薦選考では、本学が指定する 6 種類のスポーツ種目において所定の成績を収めたものを受け入れている（資料 5-13）。

社会人特別入学試験 I・II では、公募制推薦入学試験 B 日程もしくは一般入試 B 日程の試験成績と面接により合否を決定している（資料 5-10 p. 14）。

社会人特別編入学試験は、3 年次編入であり、課題作文と面接によって合否を判定している。出願条件は、短期大学（旧制の専門学校を含む）を卒業、または大学に 2 年以上在籍し 62 単位以上修得したものである（資料 5-10 p. 16）。

大学 3 年次編入学試験は、社会人特別編入学試験と同様であるが、課題作文と面接に加えて、志望学科の特徴を反映した筆記試験が課せられる（資料 5-10 p. 15）。

〈2〉文学部

年度ごとに作成される入学試験要項に従って募集・選抜を行っている。入試区分としては、A0入試、公募制推薦入学試験、特別推薦入学(指定校)、本学院併設校からの松蔭高校生特別推薦選考、一般入学試験、大学入試センター試験利用の入学試験、社会人特別入学試験、帰国子女特別入学試験、外国人留学生特別入学試験、スポーツ優秀者特別推薦選考がある。英語学科では英語プロフェッショナル専修(定員30名)とグローバルコミュニケーション専修(定員110名)、日本語日本文化学科では現代日本語専修(定員40名)と日本文化専修(定員30名)と、それぞれで募集・選抜を行っている(資料5-10 p.3)。英語プロフェッショナル専修は、A0入試では成績評価型のみを実施し、活動評価型、松蔭ファミリー、聖公会信者等では募集していない(資料5-11 p.2)。また、英語プロフェッショナル専修では、入学時に高い英語力を必要とするため、A0入試や特別推薦入学(指定校)の出願に求められる「高校での英語の成績」を高く設定するなど、アドミッション・ポリシーとの整合性を図っている。

〈3〉人間科学部

年度ごとに作成される入学試験要項に従って募集・選抜を行っている。入試区分としては、A0入試、公募制推薦入学試験、特別推薦入学(指定校)、本学院併設校からの松蔭高校生特別推薦選考、一般入学試験、大学入試センター試験利用の入学試験、社会人特別入学試験、帰国子女特別入学試験、外国人留学生特別入学試験、スポーツ優秀者特別推薦選考がある。生活学科では、都市生活専攻(定員60名)と食物栄養専攻(定員60名)それぞれで募集・選抜を行っている(資料5-10 p.3)。食物栄養専攻では、アドミッション・ポリシーにて理科の知識を求めているため、A0入試、外国人留学生特別入学試験、スポーツ優秀者特別推薦選考を実施しない。また、特別推薦入学(指定校)、1教科入試である公募制推薦入試C日程では、高校での理科の成績を重視している。子ども発達学科では、外国人留学生特別入学試験を実施していない。なお、食物栄養専攻、子ども発達学科ともに、編入学試験を行っていない。

〈4〉文学研究科

学生募集については、アドミッション・ポリシーに基づき、毎年6月に学生募集要項と各専攻の入学選抜実施方法を審議・決定し、本学ホームページにおいて公開している(資料5-14、資料5-15)。選抜方法は、一般選抜だけでなく、社会人、外国人留学生、それぞれにふさわしい出願資格と選抜方法を設定して異なる募集要項を公開しており、幅広く門戸を開いている。英語学専攻と言語科学専攻ではさらに(国外在住)外国人留学生特別選抜を実施している(資料5-16、資料5-17)。学部オープンキャンパスにおいて、大学院要覧など大学院の資料を配布すると同時に、大学院進学に関する相談コーナーを設けている。

学生募集については、アドミッション・ポリシーに基づき、毎年6月に学生募集要項と各専攻の入学選抜実施方法を審議し決定している。入学選抜試験は秋入試(9月)と春入試(2月)の年2回実施している。選抜試験については、専門科目、外国語、口頭試問の点数配分をあらかじめ決めており、筆記試験採点、口頭試問ともに各専攻とも複数の教員

が実施している。入試実施後の大学院委員会において、各専攻からの合否判定案を審議し合格者を決定している（資料 5-18 p. 6）。

(3) 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

〈1〉大学全体

2014年5月現在、在籍学生数が2,262名、収容定員2,360名に対する比率は、0.96である（大学基礎データ 表4）。

各入学試験の合格者の決定は教授会で行うが、これに先立って学長を議長とした入試総務委員会で合格者案を策定し、これをもとに教授会で審議・決定する。入学者数が入学定員と大幅に乖離することのないよう、合格者案は、各学科の入学定員と前年度までの歩留まり率を考慮し決定している。

過去5年間の入学定員充足率は0.94であり、2013年度を除き、定員を下回っている。2011年度の文学部改組に伴い、定員を60名減としたため、2010年度の入学定員充足率0.85から2011年度の0.95に回復した。一般入試D日程（文学部）を導入した2013年度は入学定員充足（入学定員充足率1.04）を達成したが、2014年度は入学定員充足率0.93にとどまり、恒常的な入学定員充足には至っていない（大学基礎データ 表3）。

〈2〉文学部

2014年5月現在、文学部の在籍学生数が796名、収容定員1,040名に対する比率は、0.77である（大学基礎データ 表4）。

表5-2は、過去5年間の文学部の入学定員充足率である（大学基礎データ 表4をもとに作成）。文学部は、いずれの年度も定員を下回っている。文学部改組（2011年）を行った後でも、2012年度の36%の欠員を最高に、恒常的に定員を下回っている。2013年度入試から一般入試D日程（3月中旬実施、文学部のみ）を新設した後は、2013年度（入学定員充足率0.86）、2014年度（入学定員充足率0.77）と、改善の傾向が見られる。

表5-2 文学部入学者数

文学部	入学定員	入学者数	入学定員充足率
2010年度	320	207	0.65
2011年度	260	199	0.77
2012年度	260	166	0.64
2013年度	260	223	0.86
2014年度	260	201	0.77
平均			0.74

表5-3 英語学科入学者数

	英語英米文学科		英語学科		入学定員充足率
	入学定員	入学者数	入学定員	入学者数	
2010年度	170	104	—	—	0.61
2011年度	—	—	140	103	0.74
2012年度	—	—	140	94	0.67
2013年度	—	—	140	111	0.79
2014年度	—	—	140	115	0.82
平均					0.73

表 5-4 日本語日本文化学科入学者数

	国文学科		日本語日本文化学科		入学定員 充足率
	入学定員	入学者数	入学定員	入学者数	
2010年度	80	57	—	—	0.71
2011年度	—	—	70	60	0.86
2012年度	—	—	70	43	0.61
2013年度	—	—	70	65	0.93
2014年度	—	—	70	50	0.71
平均					0.76

表 5-5 総合文芸学科入学者数

	総合文芸学科		入学定員 充足率
	入学定員	入学者数	
2010年度	70	46	0.66
2011年度	50	36	0.72
2012年度	50	29	0.58
2013年度	50	47	0.94
2014年度	50	36	0.72
平均			0.72

<3>人間科学部

2014年5月現在、人間科学部の在籍学生数が1,466名、収容定員1,320名に対する比率は、1.11である（大学基礎データ 表4）。

表5-6は、過去5年間における人間科学部入学定員充足率である（大学基礎データ 表4をもとに作成）。過去5年間の平均は1.11であり、適正な学生数を受け入れている。

表 5-6 人間科学部入学者数

人間科学部	入学定員	入学者数	入学定員 充足率
2010年度	330	345	1.05
2011年度	330	364	1.10
2012年度	330	386	1.17
2013年度	330	391	1.18
2014年度	330	345	1.05
平均			1.11

表 5-7 心理学科入学者数

	心理学科		入学定員 充足率
	入学定員	入学者数	
2010年度	70	73	1.04
2011年度	70	73	1.04
2012年度	70	92	1.31
2013年度	70	82	1.17
2014年度	70	70	1.00
平均			1.11

表 5-8 生活学科入学者数

	生活学科		入学定員 充足率
	入学定員	入学者数	
2010年度	120	128	1.07
2011年度	120	136	1.13
2012年度	120	145	1.21
2013年度	120	153	1.28
2014年度	120	136	1.13
平均			1.16

表 5-9 子ども発達学科入学者数

	子ども発達学科		入学定員 充足率
	入学定員	入学者数	
2010年度	80	84	1.05
2011年度	80	89	1.11
2012年度	80	96	1.20
2013年度	80	95	1.19
2014年度	80	95	1.19
平均			1.15

表 5-10 ファッション・ハウジングデザイン学科入学者数

	ファッション・ハウジ ングデザイン学科		入学定員 充足率
	入学定員	入学者数	
2010年度	60	60	1.00
2011年度	60	66	1.10
2012年度	60	53	0.88
2013年度	60	61	1.02
2014年度	60	44	0.73
平均			0.95

〈4〉文学研究科

2014年5月現在、修士課程の在籍学生数は24名、収容定員40名に対する比率は0.60である。博士課程の在籍学生数は2名、収容定員6名に対する比率は0.33である（大学基礎データ 表4）。

表5-11（修士課程）、表5-12（博士課程）は、過去5年間における入学定員充足率である（大学基礎データ 表4をもとに作成）。修士課程の5年間平均の入学定員充足率は0.68であるが、0.50を下回る年度が発生している。博士課程では、5年間平均の入学定員充足率は0.30であり、入学者がいない年度が発生している。

表5-11 修士課程入学者数

修士課程	入学定員	入学者数	入学定員充足率
2010年度	20	20	1.00
2011年度	20	17	0.85
2012年度	20	9	0.45
2013年度	20	14	0.70
2014年度	20	8	0.40
平均			0.68

表5-12 博士課程入学者数

博士課程	入学定員	入学者数	入学定員充足率
2010年度	2	1	0.50
2011年度	2	0	0.00
2012年度	2	1	0.50
2013年度	2	0	0.00
2014年度	2	1	0.50
平均			0.30

（4）学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

〈1〉大学全体

学生募集および入学者選抜は、年度ごとに作成される入学試験要項、入試に関する本学規程に基づき、公正かつ適切に実施している。

各入試区分の募集人数、選抜方法や実施方法等についても、年度ごとに、入試総務委員会が検証・見直しを行い、教授会に提案している。

〈2〉文学部

学生募集および入学者選抜は、年度ごとに、入試総務委員会が検証・見直しを行い、教授会に提案している。また、学部会議でも、入試情報と入学後の成績を調査し、入試の効果について分析を行っている（資料5-20）。学部会議での検討結果は、学長室を通じて、入試総務委員会にフィードバックされる。

〈3〉人間科学部

学生募集および入学者選抜は、年度ごとに、入試総務委員会が検証・見直しを行い、教授会に提案している。また、学部会議でも、入試情報と入学後の成績を調査し、入試の効果について分析を行っている（資料5-20）。学部会議での検討結果は、学長室を通じて、入試総務委員会にフィードバックされる。

〈4〉文学研究科

学生募集および入学者選抜は、年度ごとに、大学院委員会が検証・見直しを行っている。（資料5-21）

2. 点検・評価

●基準5の充足状況

本学が求める学生像をもとに、学生の受け入れ方針を公表し、適切に学生募集・選抜を行っている。

大学全体では、2013年度を除き、定員を下回っているものの、過去5年間の入学定員充足率は0.94である。また、在籍学生数が2,262名であり、収容定員2,360名に対する比率は、0.96である。したがって、適切な定員の設定のもと、学生の受け入れ、在学学生数の管理の基準を満たしている。

文学部では、改組前(2010年度)の入学定員充足率が0.65であったのに対し、改組後4年間の平均充足率が0.76と改善しているものの、適切な入学定員・入学者の管理には至っていない。

人間科学部では、過去5年間平均の入学定員充足率は1.11である。また、在籍学生数が1,466名であり、収容定員1,320名に対する比率は、1.11である。したがって、適切な定員の設定のもと、学生の受け入れ、在学学生数の管理の基準を満たしている。

文学研究科では、修士課程の5年間平均の入学定員充足率は0.68である。在籍学生数は24名、収容定員40名に対する比率は0.60である。博士課程では、5年間平均の入学定員充足率は0.30である。在籍学生数は2名、収容定員6名に対する比率は0.33である。文学研究科では、在学学生数の管理の基準をおおむね満たしている。

①効果が上がっている事項

文学部については2011年にカリキュラムの充実を図るため、改組を行い、同時に定員削減を行った。現在のところ入学定員充足には至っていないが、改組によって、入学定員充足率に改善が見られた。また、2013年度入試より新設した一般入試D日程(3月中旬・文学部のみ)では、一定の入学者数を新たに確保している(資料5-22)。

大学全体(文学研究科も含む)が大学ポートレートへ参加して、本学の理念・目的・教育内容などを受験生にもわかりやすく示した。

②改善すべき事項

文学部の定員充足率を改善する必要がある。2011年度の改組の結果、英語学科の英語プロフェッショナル専修は入学定員充足を達成したが、グローバルコミュニケーション専修は充足に至っておらず、英語学科全体としては入学定員を満たせていない。

文学研究科は、定員充足率を改善する必要がある。

3. 将来に向けた発展方策

①効果が上がっている事項

非入学者・入学者調査(資料5-23)の分析を通じて、近隣の大学における本学の置かれた位置を検討した。その結果をもとに、広報戦略の見直しをする。

インターネットを駆使した募集戦略を展開する。大学ポートレートへの参加によるインターネット環境を通じての受験生への広報とともに、2015年度の公募制推薦入試、一般入

試、センター利用入試から、Web 出願を導入する。このシステム導入は、女子大において、本学が先駆けである。これにより、願書の取り寄せが不要で、かつ、インターネット環境があれば、いつでも出願できる。つまり、本学への出願が容易になり、出願者数の増加が見込まれる。

②改善すべき事項

文学部は、定員への充足率を改善するため、抜本的な改革が必要である。学長室（学長、副学長、事務局長）の方針のもと、学部会議、実務会議のなかで、改組による設置期間終了後のカリキュラムの再編を検討している。英語学科グローバルコミュニケーション専修のグローバルインターンシップの導入など、新たな取り組みを具体化させつつある。また、学科改編も含めた議論も同時に行っている。

文学研究科においては、学部とのカリキュラムの一貫性を強めて、内部進学者を増やしていくようにする（資料 5-24、資料 5-25）。また、大学院委員会において、学生確保にむけ、学生募集のあり方について議論を行っている（資料 5-21）。

4. 根拠資料

- 5-1 神戸松蔭女子学院大学 ホームページ抜粋「神戸松蔭女子学院大学 理念・目的・方針」（既出 1-12）
<http://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/foundation.html>
<http://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy.html>
- 5-2 大学ポータル 神戸松蔭女子学院大学 抜粋「特色、目的、方針等」（既出 1-14）
<http://up-j.shigaku.go.jp/school/category01/00000000572501000.html>
<http://up-j.shigaku.go.jp/department/category01/00000000572501001.html>
<http://up-j.shigaku.go.jp/department/category01/00000000572501004.html>
<http://up-j.shigaku.go.jp/department/category01/00000000572501002.html>
<http://up-j.shigaku.go.jp/department/category01/00000000572501003.html>
- 5-3 2014 年度 入学試験要項
- 5-4 神戸松蔭女子学院大学 ホームページ抜粋「神戸松蔭女子学院大学大学院 理念・目的・方針」（既出 1-13）
<http://www.shoin.ac.jp/guide/philosophy/policy.html>
- 5-5 2014 年度 神戸松蔭女子学院大学 大学案内パンフレット（既出 1-5）
- 5-6 「恋する」オープンキャンパス 2013
- 5-7 春のオープンキャンパス
- 5-8 LINE（ライン）インフォメーションカード
- 5-9 各委員会所管事項（既出 4(2)-12）
- 5-10 2014 入試ガイド
- 5-11 2014 A0 入試ガイド
- 5-12 2014 年度 松蔭高校生特別推薦選考募集要項
- 5-13 2014 年度 スポーツ優秀者推薦選考募集要項
- 5-14 2014 年度 大学院学生募集要項

- 5-15 2014年度 外国人留学生大学院学生募集要項
- 5-16 2014年度 大学院（国外在住）外国人留学生特別選考募集要項（修士課程）
- 5-17 2014年度 大学院（国外在住）外国人留学生特別選考募集要項（博士課程）
- 5-18 神戸松蔭女子学院大学大学院学則（既出 1-3）
- 5-20 入試情報一覧
- 5-21 2014年度第4回 大学院委員会議事録
- 5-22 2014年度 一般D・センターC 合格者数
- 5-23 2013入学者調査・非入学者調査
- 5-24 アクションプラン大学院文学研究科（2014年5月29日）
- 5-25 大学院へ行こう!!